令和7年度　第1回「白山市ミライ会議」会議概要

※会話の順番を入れ替えたりまとめたりしています。
※制度などの説明は、会議開催時点のものです。

日　時：令和7年5月17日（土）　14：30～

場　所：鳥越コミュニティセンター

参加者：10 名

◆　鳥越地区の目指す姿は「子どもと女性が魅力を感じる地域」です

（参加者）

子どもが、大きな声で遊び回るのを温かく見守る大人が周りにいるというような環境が一番いいのかなというふうに思っています。

そのような環境を作るためには、子どもと女性に魅力を感じていただけるような地域にならないと、と思います。急激に人口減少が進み、白山市が合併した 20 年の間に鳥越地区では 1000 人近くが亡くなったり鳥越から出ていったりしています。昨年の一年間でも 70 人が減少しており、急激な人口減少を肌身で感じています。あと5，6年経てば、老夫婦で暮らしているような家が増えると思います。

そのためにも子どもや女性が魅力を感じるような地域、そして子育てしやすいような環境にしなければ、末永くここに住みたいという気持ちにならないと思って活動をしています。これはこの鳥越地区を含めた白山ろく地域のキーワードではないかと思っています。

◆　高校生の通学や送迎に困難があります

（参加者）

コミュニティバスは、家の前まで来てもらえないと乗れないようなお年寄りはなかなか乗りません。逆の発想で、何かを継続するためには何かを見直さないといけないという観点からすれば、コミュニティバスの運用の仕方を大幅に変えるべきだというふうに思っています。

例えば朝、一斉にコミュニティバスを出して、金沢や鶴来方面に通う高校生の足に使うとか、帰りは部活動で遅くなっても家まで帰れる状態を整えるとか、白山ろく地域ではそのような形でコミュニティバスを運営できたらと、常々思っています。

北陸鉄道石川線が、西金沢駅から IR の線路を使って金沢駅までバーッと乗り入れするぐらいの勢いでやってもらえないかなと思います。そのことが 1 つの交通手段にはなるのではないかなというふうに思っています。コミュニティバスの活用の見直しということをご提案したいなと思います。

（市長）

確かに、人が乗っていないバスが走り、本当に乗せたいときにバスが走っていないことがあります。合理性の観点からバスの運営を考えなければならないと考えています。小学生、中学生が自然豊かなところで生活し、いざ高校生になると通学する際に費用の問題や交通手段がないといった問題はありますね。

石川線が鶴来駅から IR いしかわの金沢駅へ直接運行するという話は以前から出ていて、それについては 1 回検討して欲しいというのは会合でも出ています。ただ、大きな工事になりますし、新幹線の橋脚の下での整備になるので、問題もいろいろあったりします。それは私たちもこれからも言い続けていきたいと思います。

鶴来高校も定員割れをしています。私が以前に鶴来中学校で勤めていた時は、鶴来高校にたくさん行っていました。地元の高校が賑わってもらえばいいなと思います。

人口減少について、子どもが高校生になると鳥越地区から出て、野々市や金沢に住むという家庭はあるのでしょうか？

（参加者）

そういう人もいると思いますが、結婚するとき、家を建てるときに、鶴来や野々市市、金沢市に引っ越していくのが多く、子どもが小学校、中学校は鳥越で育って、高校から鳥越を出ていくっていうのはそんなに聞きません。子どもと一緒に鳥越地区を出たらほとんどの人は帰ってきません。

◆ 鳥越が好きで住み続けたいけれど、学校が小規模になり部活動などの心配も大きいです

（参加者）

子どもが 4 月からは鳥越中学校に進学します。本人も私も鳥越が好きですが、お友達がすごく少なく、小さいコミュニティのまま大事な多感な時期を迎えていいのかと思っています。

交通の便も悪く、子どもの可能性を小さくしてしまうのではないかと思います。いろんな可能性がある中で、白山ろくに住んでいるがゆえにできないことがあります。仕事を変えて送迎しなければいけないとか、何かを諦めなければいけない状況になっています。離れたくなくても子どものために、離れなければいけないのかなっていう状況も少なからずあると思います。地元が好きだけどいられない、ちょっと窮屈に感じます。

（参加者）

部活動は、平成 8 年度から平日は 3 日間で土日はなくなるそうです。平日の 3 日間については学校の先生が教えますが、それ以外の日程で何かしたいっていうのであれば、ボランティアや教室みたいなところに入ってもらうとか、いろんな選択肢は用意してありますよっていう話でした。そこに行くにしても送迎に問題があります。

（市長）

結局、いろんなことに必ず出てくる課題は送迎です。そういう意味で先ほどのコミュニティバスとか、それ以外の交通手段があればと思います。最近では、ライドシェアやオンデマンドなどのサービスを行っているところもあります。小松市では、小松駅から小松空港までの自動運転をやっていますが、なかなか難しいです。

部活動についてはやり方を工夫しながら先生の働き方を見直しているところです。最近では、野球でも白山ろく地域出身で小松大谷高校で活躍している人がいます。鳥越の三坂から小松市に抜ける道を通っていると思います。市全域でも軟式野球はどの中学校も人数が少なく、能美市や小松市、金沢市の硬式野球チームに親の送迎で行っている人がいます。バスケットボール、サッカー、水球などもクラブチームがあります。学校の部活動ではないクラブチーム等に入っても学校はそれでだいじょうぶになっています。前は全員入部制でしたが、今は必ず入らなければいけないとはしていません。ただ、市外に行くときの送り迎えという問題が出てきます。

（参加者）

私は小学校中学校で、鳥越一向一揆まつりでの踊りを教えてくださいっていう依頼があって、ずっと続けています。一向一揆まつりでは、若い人たちがいっぱい踊りに加わってくれていて、私たちがやっていることの成果でもあるかなあといつもうれしく思っています。

一方、いろんな伝統的な文化の担い手がみんな高年齢化していて、後継者不足です。後継者をどう育成するかっていうところでいつも話題になっていて、頭を悩ませています。

最近中学校の部活で、地域のスポーツ団体とか文化団体など、地域がそこに関わっていくことができるみたいなことを聞いています。そういう方向でいくのならば、それが後継者不足の手がかりになるのかなあとか、そこで何かお手伝いができて、継承していけたらいいな、なんていうことを考えています。

部活動は子どもがやりたいと思うことが大事です。子どもたちから来てもらうのではなく、中学校に出向いてやることができれば一番いいと思います。地域にはピアノや書道の先生がいます。工夫すればいろんなことが中学校の中でできると思います。

（市長）

子どもの部活動として地域の踊りなども想定していきたいと思います。コミュニティセンターでの講座でも構いません。そこに中学生が来て一緒に書道をするなどができると思います。

親として友達が少ない小さいコミュニティで心配ということについてですが、輪島市は小学校を統合する話が出ていますが、子どもの通学距離は長くなります。現在、小さいながらも先生方は一生懸命頑張ってやっていると思ってます。

◆ 小学校の合同授業や交流を提案します

（参加者）

勉強ならリモートでもできますが、体育はできません。例えば河内小学校と鳥越小学校が、5，6限合同体育というやり方もあるのではないでしょうか。ここではチーム競技があまりできないので、チームから作戦や協力する力も付いてくると思います。移動が長くなるならバスでルール説明や英語のリスニングの時間とか、移動時間も授業に絡めて無駄がないようにできればと思います。

（参加者）

小学校から中学校までずっと同じメンバーなので、高校に入った時からどうやって友達を作ればいいかわからないことがあります。他の小学校や中学生と少し交流する時間があると、また違うかなと思います。

（市長）

例えば白嶺小学校と白峰小学校は、総合的な学習の時間を一緒にやっています。鳥越小学校と河内小学校もそういう形でできると思います。教育委員会にそういった提言があったと話をします。

鶴来から白山ろくにジオパークの学習に来たりしているので、小学生と交流するような形ができればと思います。そういういわゆるジオパークの学習を一緒に組んでやればいいと思います。

◆ 民間の移動販売車が巡回してくれていて助かっています

（市長）

買い物の関係では鳥越、白峰地区でファッションセンターしまむらさんに来ていただいて買い物をするという取り組みをされていて、そういった工夫も素晴らしいと思います。

（参加者）

取り組みで気が付いたのは、お年寄りはしまむらさんに来てもらって買い物をしなければならないというのではないということです。洋服とかそういった衣類はおそらく毎日いるものではないので、そういったものは子どもが車に乗せていけばいいと思います。

しかし、おそらくこの取り組みもひとつのきっかけになって、白山農協さんやホームセンターヤマキシさんがそれぞれの集落を回ってくださるようになり、よかったのかなというふうに思っています。

（参加者）

巡回は場所によってばらばらで、ヤマキシさんは週に2回で、農協さんは全部に回っているわけではありませんが、足のないお年寄りには助かることだと思います。

◆ 若い世代が住み続け、移住できるように宅地や空き家に関する思い切った支援を

（参加者）

ゴールデンウイークに下野園地に子どもと行きました。駐車場が満車で驚きました。平日と週末ではお客さんの数が雲泥の差で、人がたくさんいて、盛り上がっていました。そこに同級生がいて、「近くに住んでいていいね。」と言われましたが、住まない理由があるのだと思います。

（参加者）

鶴来では住宅地が増えていますが、白山ろくはそういうことはありません。住める場所も、家を建てることができる場所もありません。若い人が土地を探しても自分たちの手じゃ見つけられないというのがあると思います。

しかし、地域には空き地とか、空き家がたくさんあります。そういうものを上手く活用して、若い夫婦が簡単に土地を探して、「鳥越いいね、自然いっぱいあるし、学校も近いしね」と思ってもらえうるような仕組みづくりからしていかないと、人口は減り続けると思います。

（参加者）

空き家対策として、ターゲットを絞って、より有利な条件で住んでいただく施策が必要ではないでしょうか。

（参加者）

空き家を壊すにも金額が高くつくので、そのままになっていることがあります。ならば、100 万円と言わずに思い切って、白山ろくに集中的に若い人たちがその空き家を活用するための予算をつけてもらえればありがたいと思います。

（参加者）

そういう家を市がサポートして、新しい人を見つけるような取り組みをしてほしいです。

（シティプロモーション推進課長）

白山ろくは新築に上限 100 万円の奨励金を出しています。リフォームは対象ではありませんが、空き家改修の場合は、補助制度があります。令和 7 年度から、金額も新築並みの上限 100 万円に引き上げています。空き家の補助はやはり課題になっています。

（市長）

地域によっては空き家をうまく活用しているところはあります。例えば白峰は、ホテル化していっています。空き家対策については提言いただいて検討し、少しずつ対策はしています。これは白山ろくだけでの問題ではなく、急激に広がった団地は高齢化率が高いので、同じ問題も出ています。

また、商工会では空き家をリノベーションして起業していただくような活動をしています。その取り組みで、お店の起業が増えています。白山ろくならではの魅力というものを PR して、そこに入りたい方が出てくると思います。どんどんそういう空き家をリノベーションする方が増えていけば、それも対策になると思います。

最近鳥越地区で起業された方は小松市からの入り込みを計算していると言っていましたが、インフラの整備も必要だと思います。三坂のトンネルについては、新幹線の駅で白山市に近いのは金沢駅の次が小松駅で、観光誘客にも有効です。また、災害等があって孤立したときのことを考えたら、できるだけ東西に抜けられる道を作っていかないといけません。

また交通機関は先ほど話したコミュニティバスを無駄に走らせるのではなくて、有効になるように見直しすることが必要だと思います。

◆ 地域に根差した文化の継承をしていきたいと思っています

（参加者）

現在ここに住んでいる高齢者世代は、ほぼ最後までここで生活すると思います。そういう上の世代の方が社会インフラ以外に、地域で楽しく過ごす 1 つの要素に、根付いている民謡や民舞などの文化系のものがあると思いますので、尻すぼみにならにようにしたいと考えています。

また、手取川というすごく綺麗な清流を持っているので、ジオパークの中に流れている川で、鮎の友釣り文化というのも昔からありますが、こういう文化、釣り人が減少している中で、その文化がなくなることがないような活動をしています。生涯学習課長さんともお話をさせていただきましたが、行政の方にもそういうお話が届いたときにはまた耳を傾けていただきたいと思います。

（市長）

それはコミュニティセンターの活動としてやっているのですか。

（参加者）

地域コミュニティ組織の構成員の私たちが派生してやっている活動の 1 つです。例えば民舞や、鮎の友釣りの文化継承であるとか。昨年は鳥越中学校に行って、出前授業をさせていただきました。今年も鳥越中や鶴来高校にも出前講座をする予定です。

◆ 起業したい方、企業の誘致、働く場所などについての意見交換

（参加者）

今我々が抱えている課題をお話ししましたが、市長含めて、行政側から見て、鳥越の課題をどう考えていますか。

（市長）

例えば交通のことは、効率性を考えたりすると、移動手段は課題だと思います。解決するという意味で、ヤマキシさんが入るなどの結果を生んだ、昨年鳥越でしまむらさんにきていただいた活動は良いなと思いました。

あと、若い世代の方が子育てするときの学校の在り様として、子どもが少なくなり、小さいコミュニティの中で子どもが育つことへの不安というのは、先ほど言ったように学校と学校とで、一緒に学習する機会を設けるとか、そんなことをしていけばと思います。

空き家対策も先ほど出ていましたが、大体皆さんが思ってらっしゃることは市も思ってはいますが、一気に解決は難しいです。ただ、そういう中でも、先ほど言ったインフラの整備もやっていかないといけないと思っています。

人口減少が一番大きな課題です。若い方だけでなく起業したい方も入ってくるような、そんな施策も必要かなと思っています。

（参加者）

東京の会社は田舎にサテライトオフィスを作ってリモートワークすることも増えています。国際高等専門学校もあるのでそういう意味では、そことの共同研究もやりやすくなると思います

（市長）

白山市の総面積は 755 平方キロメートルあります。大学の学ぶフィールドとしてこの白山市全域を利用しています。

鳥越でしたら河原山に SDGs の関係で金沢工業大学も入って毎年発表も行っています。鶴来の方には東京科学大学が来て、残っている施設をどう利用していくかということで、保育所の跡地を活用してみたり、松任の方では金沢星稜大学がまちの活性化ということで、町のお祭りづくりに参入して松任高校と連携してやったりしています。金城大学は鉄道のまち白山ということで、催し物をしてくれたり、キャラクターを書いてくれたりしています。白山市をフィールドとしていろいろな大学が参入してきています。

IT の活用についても、白峰では品物を手に取って出ていくと勝手に課金されていくというシステムの無人のお店ができました。例えば無人バスで朝の通学も自動運転するものがあっても面白いと思います。

（参加者）

鳥越は信号や歩行者も少ないので、自動運転を活用しやすいと思います。

（市長）

どこまで走らせるかといった課題も出てきますが、高校に通う人数を調べればできるかもしれません。

（参加者）

働く場所が少ないと思います。高校生の子どもがいるが、バイトするのも電車を使っています。鳥越では募集していないことが多いです。

（市長）

企業誘致は白山市全体では行っているが、白山ろくはインフラの課題もありますので。

（参加者）

水が我々の地域では有名なので、水を生かせるような企業誘致もいいかもしれないですね。

（市長）

水が豊富だと発電や農作物が生産できます。減農薬などの活動が全国で盛んです。鶴来では水が良いということで、クラフトジンの生産も行っています。そういう人たちが入ってくることで活性化することがあってもいいと思います。

（参加者）

不特定多数ではなくて、ターゲットを絞りこういう企業にきてくださいと言う形で成功しているところもあると聞きました。

（参加者）

徳島県の神山町は有名だが、そこかもしれません。

◆ **地域コミュニティ組織に移行してよかったのは、他団体とのコラボレーション企画が増えたことです。課題もあると思いますが、鳥越ではざっくばらんな運営でカバーしています。**

（参加者）

地域コミュニティ組織に移行して 1 年経ちますが、良かったことも課題もあります。

良かったこととしては、地域の学校や民間企業など、他の団体とコラボをして取り組む事業が増えたことです。公民館の文化祭を学校の文化発表会と合同でやったり、しまむらさんに来ていただいて、ここで店を

開いてもらったりというような事業が少しずつ増えているような傾向があります。移行してよかった部分だと思っています。

課題としては、地域コミュニティ組織とコミュニティセンターの二本立てがちょっとしっくりいってないっていうところもあるように聞いています。鳥越地区ではこのようにざっくばらんにやれる体制を取っていますが、地域コミュニティ組織とコミュニティセンターの二本立て体制の弊害も、中ではあるように思います。

◆ コミュニティセンターの業務は忙しくなりましたが、活動を喜んでもらえています

（参加者）

他団体とのコラボ事業が増えて、地域コミュニティ組織の事務局であるコミュニティセンターの仕事は忙しくなりました。いろんな所と関わると調整が必要だったり話し合いに時間が取られたりといったことが結構あります。

しかし、やってよかったと思うのは、中学校の文化祭では、生徒さんがすごく喜んでいました。発表する大人の方も、子どもに普段の活動を見てもらえました。生徒さんもこんなに人が見てくれたのは初めてと言っており良かったです。

また、今年は防災フェスと敬老会を組み合わせたイベントを考えています。防災フェスは避難所を居住スペースやトイレを用意し、もし災害が起きて避難所へ行くとここで生活することになるという体験をしてもらいます。起震車を中学校の生徒に体験してもらい、一般の方も体験に来ていただければと思っています。

（参加者）

自分らで動くことも大事ですが、相手に動いてもらう仕掛けづくりが大事だと思います。限られた人数の中で、自分から仕掛けて何でもやろうとすると大変タイトなものになります。第三者がやろうとする事業にこちらから飛び込んでいく、というような形の方が、労力が少なくていいと思います。敬老会の組織の中にこちらが行って、こういうメニューを提案するということのほうがより効率的だし、実用的だなあというような感じはしています。

（市長）

その地区の元気、明るさというのが、やはりそこでの子どもたちの育つ環境にも影響すると思っております。鳥越地区におきましては、皆様が本当によく取り組んでいただいていることに再度感謝を申し上げて、本日のお礼にしたいと思っております。今日はどうもありがとうございます。